

1970年、大阪万博の会場には「太陽の塔」が立っていた。

1970年、アジアで初めてのバンパクが大阪で開かれた。「世界の国からこんにちは」というテーマソングが日本中にあふれ、子どもたちはバンパクに行ける日を、今か今かと待っていた。会場では「太陽の塔」が両手をひろげてもかえてくれた。アポロ11号の月着陸船や月の石を見るために何時間も並んだ。インドカレーやフライドチキンを初めて食べたのも万博。外国の人を間近で見たのが初めての人もいた。毎日がお祭りのような183日間。大阪万博が残してくれた、楽しい思い出を探る旅に、さあ、出発しよう！



◆黄金のマスクとおなかの顔

太陽の塔には顔が4つあった！



◆広場を見つめる黒い太陽



40億年前
生まれた



◆いのちのうた

40億年前に地球上に生まれた「いのち」のすばらしさを歌い上げた展示。青や赤に光る球が鎖のようにつながったのは**DNA。いのちの源なんだよ。

まじく
リブわ



**DNA(ディーエヌイー)
生物の細胞の中に入り、
体を作る大切な情報を含んだ物質。



◆生命の樹

太陽の塔の中を上へ上へと伸びる生命の樹。40億年前に生まれた命の源から三葉虫、恐竜、そしては人類へと進化してきた道のりがひとめでわかる。樹は果てしのない未来に向かってさらにのびていく。



◆自然のうた

立ち上がって歩き始めたヒト、手を使って道具を使い始めたヒト。火を使いこなすようになったヒト。自然の脅威にけんめいに立ち向かって生きてきた私たちの祖先の姿をあらわしている。

太陽の塔は中に入れたんだね！



世界の国からこんにちは

テレビやラジオはもちろん、街を歩いていても「こんにちは〜こんにちは〜」という三波春夫さんの歌声が追いかけてきた！

◆岡本太郎(1911~1996)日本を代表する芸術家。大阪万博のテーマ館を手がけた。99年10月、川崎市に岡本太郎美術館がオープン。